

【ごあいさつ】

日本ハムグループは自然の恵みに感謝し、美しい地球を次世代に残すことは私たちの責任であると考えています。1998年に「環境宣言」を行い、環境への配慮と事業発展の融和を経営の課題として取り組んでいます。2005年より掲げるグループブランドのステートメント「人輝く、食の未来」にもその思いが込められております。

2003年度、日本ハムグループは、まず本工場全8箇所の全てにおいて環境マネジメントシステムの国際規格であるISO14001の認証を受けることができました。2004年度に入り、グループの東北日本ハム(株)においても全生産拠点で認証を受けました。今後もグループ企業への拡充を推進してまいります。

教育につきましても、2003年度一年をかけた、グループの管理職全員に対して、環境教育を実施しました。2004年度も継続して実施しております。着実に環境への取り組みは広がっていますが、より一層の充実を図ってまいります。現在は主に製造部門が中心になって進めておりますので、管理部門、販売部門へも浸透させていかななくてはなりませんし、グループ全社への拡大展開も緊急の経営課題であると考えております。

これまでの期間を振り返ってみますと、環境への関心やその重要性の認識は高まっておりますが、具体的

なアクションはまだ不十分であると思います。環境問題は、自分自身の問題として捉え、それぞれの立場で自分の住む国や地域、自分が働く会社や職場、自分の家族など、身近なところから始めていくべき活動だと思っております。日本ハムグループは社員の環境への取り組みを支援していくとともに、会社としても社会的責任を果たし、地域の「良き隣人」であるように努めてまいります。

日本ハムグループでは、2002年からコンプライアンス重視の経営の方針を掲げ、その推進を図っていますが、今後この流れを、環境問題、法令遵守だけでなく、社会において相応の責任を果たしてゆくべく、CSR(企業の社会的責任)への取り組みを検討するプロジェクトを進めております。企業の社会的責任を積極的に果たすことは、当社グループと社会との良好な関係を築き、持続的な発展に結びつくものと認識しております。CSRでは「環境的側面」だけでなく、社会貢献・公正・人権・経済性といった「社会的側面」「経済的側面」からも企業活動を捉え、長期的な企業価値の向上に努めてまいります。

「環境レポート2004」では、コンプライアンス活動等も紹介させて頂きました。今後ともさらなる情報開示に努めてまいります。皆様方のご助言、ご意見をお寄せ頂ければ幸いです。



日本ハム株式会社
代表取締役社長
ふじ い よし きよ
藤井良清

CONTENTS

- ごあいさつ..... ❶
- 企業理念・日本ハムグループの概要..... ❷
- 日本ハムグループの事業..... ❸
- 環境憲章..... ❹
- 事業活動と環境への影響..... ❺
- '03年度トータルデータ/環境目標と実績..... ❻
- 環境トピックス..... ❼
- 諫早プラントの取り組み
- ISO14001認証取得の取り組み
- 環境教育の取り組み
- 研究開発の取り組み
- 自動車への取り組み
- 工場の取り組み
- お客様とのコミュニケーション..... ❸
- 社会コミュニケーション..... ❹
- コンプライアンス経営..... ❺
- 環境会計..... ❻
- 環境レポート2004ができるまで..... ❼

日本ハム環境レポート2004について

- ・対象範囲
この環境レポートは、環境省が2002年に発行した『環境報告書ガイドライン』に沿って、日本ハム(株)国内事業所および国内関係会社(以下日本ハムグループと表記)の事業活動を対象としています。
- ・対象期間
データ部分に関しては2003年4月1日～2004年3月31日の1年間の事業活動をまとめています。また、社会コミュニケーション活動などについては、一部最近の内容を掲載しています。
- ・対象分野
主に日本ハムグループの環境活動を中心に、社会貢献活動など社会・経済的な事業活動も掲載しています。
- ・おことわり
この環境レポートの記載事項については、数量、金額などは概数によるものがあり、また、今後変更される場合もあります。

※各ページのインデックス横及び見出し下にありますホームページアドレスは『ニッポンハムのホームページ・環境への取り組み』関連項目に対応しています。

企業理念

- 企業理念
 1. ❶わが社は、「食べる喜び」を基本のテーマとし、時代を画する文化を創造し、社会に貢献する。
 2. ❷わが社は、従業員が真の幸せと生き甲斐を求める場として存在する。

●経営理念

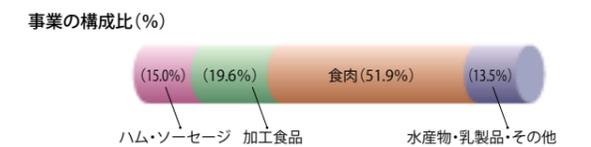
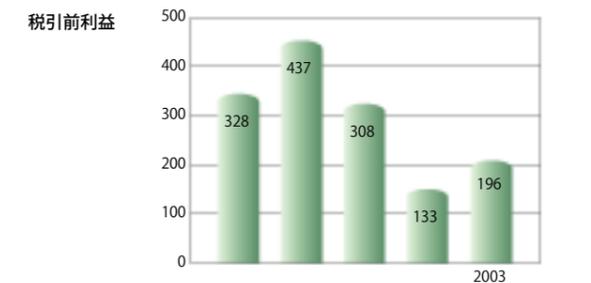
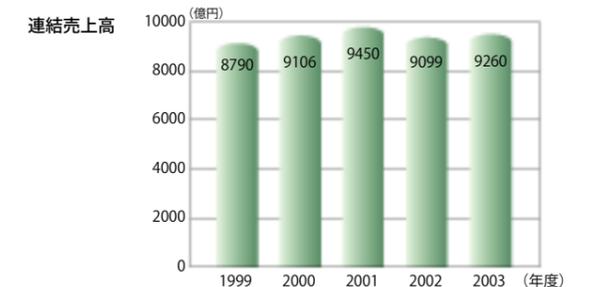
1. ❶高邁な理想をかかげ、その実現への不退転の意志をもって行動する。
2. ❷人に学び、人を育て、人によって育てられる。
3. ❸時代の要請に応じて時代をつくる。
4. ❹品質・サービスを通して、縁を拡げ、縁あるすべての人々に対する責任を果たす。
5. ❺高度に機能的な有機体をめざす。

●企業メッセージ

「幸せな食創り」

会社概要

組織名称 ❶ 日本ハム株式会社 / NIPPON MEAT PACKERS, INC.
 ❷ 日本ハムグループ
 ❸ 設立 ❹ 1949年5月30日
 ❺ 本社所在地 ❻ 大阪府大阪市中央区南本町3-6-14
 代表者 ❷ 代表取締役社長 藤井良清
 資本金 ❸ 241億6,500万円(2004年3月31日現在)
 従業員数 ❹ 28,300名(2004年3月現在/グループ合計)



グループ事業

- 日本ハム(株)
- 生産肥育**
- 日本スワイン農場(株)
- 日本ホワイトファーム(株)
- ニッポンフィード(株)
- 食肉処理・加工**
- 日本フードパッカー(株)等3社
- 食肉販売**
- 東日本フード(株)等5社
- ジャパンフード(株)
- 食肉加工品製造・販売**
- 静岡日本ハム(株)
- 長崎日本ハム(株)
- 協同食品(株)
- (株)ジャバス
- 東北日本ハム(株)
- 南日本ハム(株)
- (株)函館カール・レモン
- (株)鎌倉ハム富岡商会
- ヘルマン(株)
- トーチクハム(株)
- 加工食品製造**
- 日本ハム食品(株)
- 日本ハム惣菜(株)
- 食肉加工品・加工食品販売**
- 日本ハム東京販売(株)等3社
- 日本ハム北部直販(株)等5社
- 日本ハムデリニュース(株)
- 水産・乳製品その他 製造・販売**
- マリンフーズ(株) [水産]
- 日本ルナ(株) [乳製品]
- (株)宝幸 [水産・チーズ]
- 日本ドライフーズ(株) [フリーズドライ食品・惣菜]
- 日本ビューアフード(株) [食肉・調味料]
- (株)丸和 [健康食品]
- 物流**
- 日本物流グループ(株)
- 日本ハム北海道量販サービス(株)等6社
- サービス その他**
- 日本ファインフード(株) [レストラン]
- (株)スエヒロレストランシステム [レストラン]
- 日本ハムキャリアコンサルティング(株) [人材育成・派遣]
- 日本ハムライフサービス(株) [保険・旅行・通販]
- (株)エヌ・エス・イー [情報処理]
- 日本ハムエスピー(株)等2社 [店頭宣伝販売]
- (株)マイン [編集・広告制作]
- (株)北海道日本ハムファイターズ [プロスポーツ事業]

●ハム・ソーセージ事業



●加工食品事業



●食肉事業



●水産・乳製品事業 等



●健康食品事業



●サービス その他



環境憲章

- 環境理念
日本ハムグループは、自然の恵みに感謝し、美しい地球を次世代に残すことは私たちの責任であると考え、企業活動のあらゆる面で継続的に環境保全に取り組みます。
- 環境行動指針
我々は、環境問題への理解を深め、一人一人の業務において、環境へのやさしさを実践します。
 1. 環境・安全に配慮した商品・サービスの開発に努めます。
 2. 省エネ・省資源・環境負荷低減に努めます。
 3. 推進体制の整備や意識向上をはかり、環境管理システムの充実に努めます。
 4. 法規制の遵守はもとより必要に応じて自主基準を設定し、環境保全水準の向上に努めます。
 5. 環境保護活動を通して、地域社会との協調・融和に努めます。



工場周辺の清掃活動 (南日本ハム(株))



「森林を守ろう! 運動」 (茨城県つくば山)



工場周辺の清掃活動 (日本フードパッカー(株) 道東工場)



循環型農業への取り組み (日本スワイン農場(株) 知床事業所)



地域振興 (日本スワイン農場(株) 知床事業所)



地球温暖化防止対策 (日本物流センター・脱フロン冷却装置)

日本ハムグループ 事業の流れと環境データ

2003年度の事業活動を振り返って
～大気系への有害物質排出量を大幅に削減～

日本ハムグループでは、事業活動が環境に与える影響を把握するため、肥育から販売にいたる各プロセスにおいて環境データを集約し、年度毎に環境レポートによりご報告してお

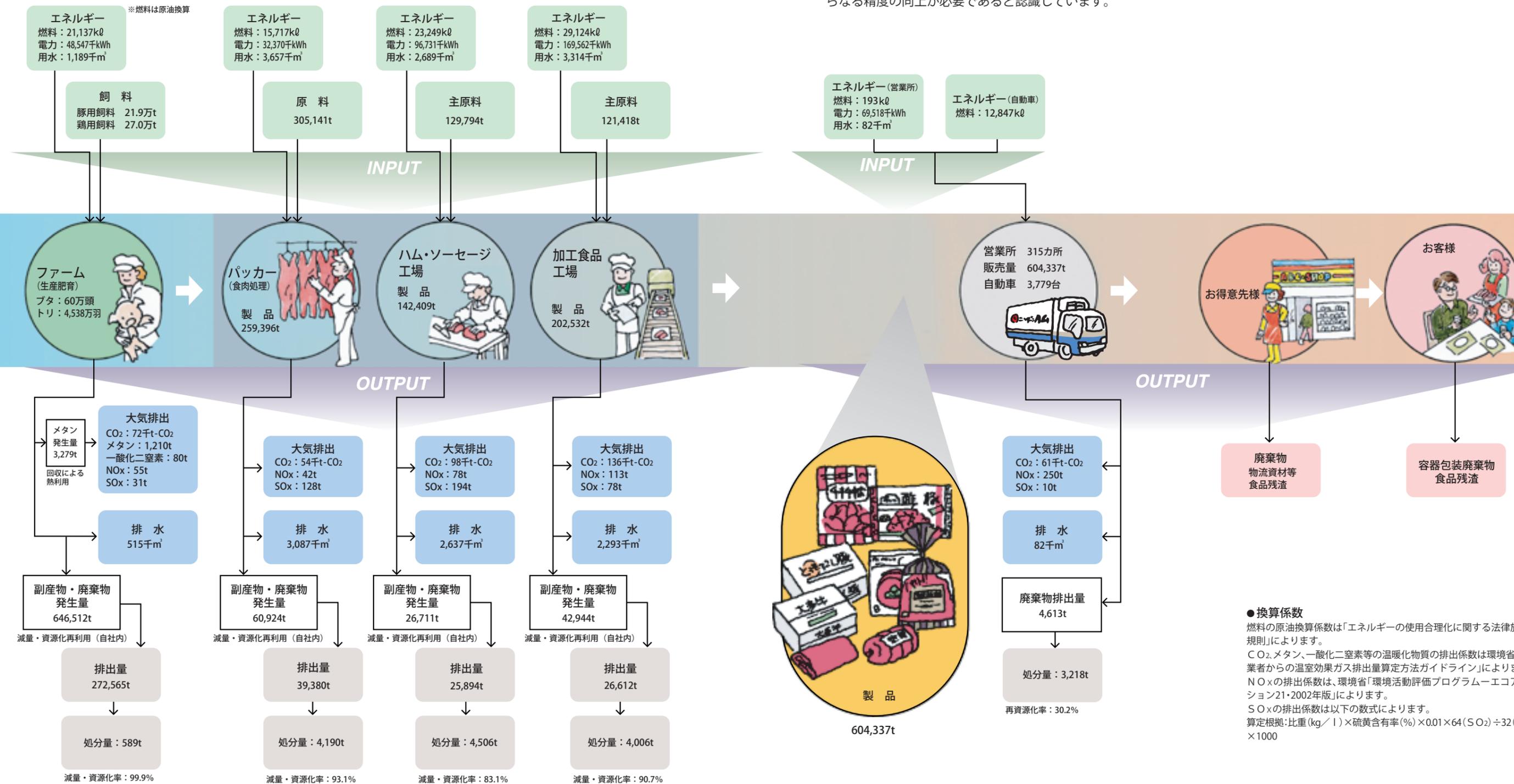
ります。本年度より食肉事業とそれ以外で分けて掲載しています。

2003年度は、生産数量が若干の伸びを見せ、また、生産体制の見直しによる効率化に伴って、前年以上の資源の有効活用を実施することができました。

主要エネルギー使用量の製造量原単位*は燃料が6.2%、

* 原単位=製造量単位当り

食肉・加工事業データ

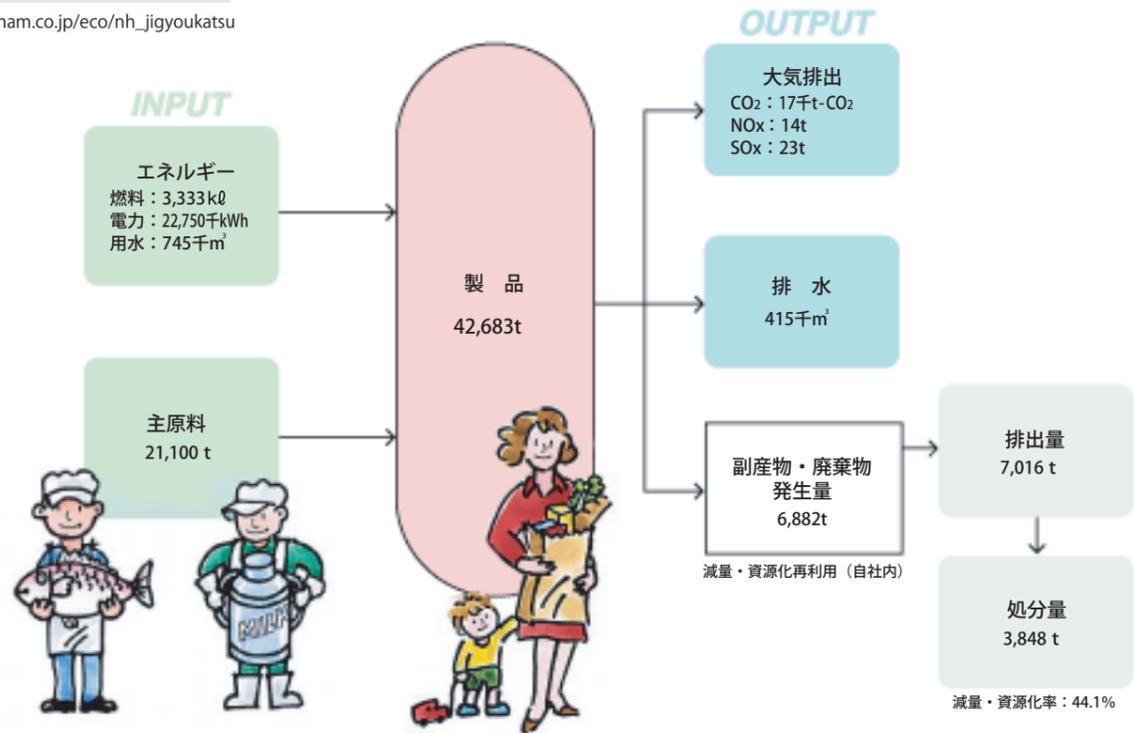


●対象
日本ハム(株)8工場、日本ホワイトファーム(株)5事業所、日本スウィン農場(株)5事業所、日本ハム食品(株)3工場、日本ハム惣菜(株)7工場、日本フードパッカー(株)7工場、東北日本ハム(株)2工場、静岡日本ハム(株)、長崎日本ハム(株)、協同食品(株)、南日本ハム(株)、(株)函館カール・レイモン、(株)鎌倉ハム富岡商會、ヘルマン(株)、トーチクハム(株)、日本ドライフーズ(株)、マリルフーズ(株)、日本ビュアフード(株)8工場、日本ルナ(株)、日本ハムグループ営業施設315営業所

●換算係数
燃料の原油換算係数は「エネルギーの使用合理化に関する法律施行規則」によります。
CO₂、メタン、一酸化二窒素等の温暖化物質の排出係数は環境省「事業者からの温室効果ガス排出量算定方法ガイドライン」によります。
NO_xの排出係数は、環境省「環境活動評価プログラム—エコアクション21—2002年版」によります。
SO_xの排出係数は以下の数式によります。
算定根拠: 比重(kg/l) × 硫黄含有率(%) × 0.01 × 64(SO₂) ÷ 32(S) × 1000

水産・乳製品、乾燥食品
データ
(日本ドライフーズ／日本ルナ
／マリンフーズ)

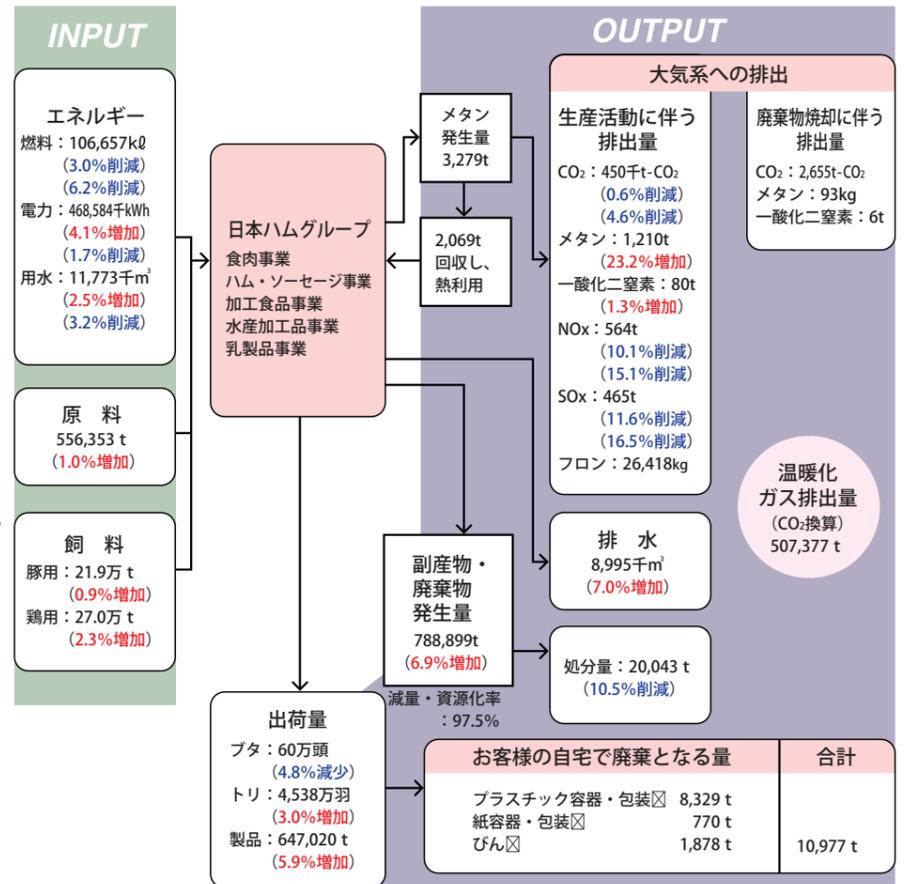
http://www.nipponham.co.jp/eco/nh_jigyokatsudou.html



日本ハムグループ
2003年度
INPUT・OUTPUT
トータルデータ

http://www.nipponham.co.jp/eco/nh_jigyokatsudou.html

日本ハムグループの、各工場での原料・エネルギーなどの環境からのインプット要因と、大気排出、排水、廃棄物などのアウトプット要因をまとめたものです。
* () 内は対2002年度比。上段は総量、下段は製造原単位あたりの数値。青字は減量化、赤字は増加を示す。



2003年度
環境目標と実績

http://www.nipponham.co.jp/eco/nh_plan.html

2003年4月より3カ年計画でスタートした新中期経営計画に基づく「エコアクション計画パートI」の2003年4月～2004年3月における実施結果についてご報告いたします。

今後はISO14001の認証取得拠点を更に拡大し、EMS(環境マネジメントシステム)活動を通して環境保全に対する従業員の意識向上を図ることで、更なる成果を挙げなくてはならないと考えております。

(エコアクション計画パートI 2003年度結果のご報告)

	テーマ・目的	2003年度目標	2003年度結果	2003年度結果概要と評価	2004年度目標	2005年度目標
グループ共通テーマ・目標	地球温暖化防止対策	グループ全体のCO ₂ 排出量を2002年度比2%削減(原単位)	排出量4.6%削減	環境保全に対する製造工場の取り組みにより生産効率が向上することで省エネ化が進み、その結果CO ₂ 排出量の削減を達成しました。	2002年度比5%削減 (2003年度結果良好な為2005年度目標を前倒ししました。)	2002年度比5%削減 (2004年度の結果を元に目標を見直します。)
	資源の有効利用	グループ全体の水使用量を2002年度比2%削減(原単位)	使用量3.2%削減	製造現場の床ドライ化等の取り組みにより目標を達成しました。	2002年度比3.5%削減	2002年度比5%削減
	資源の有効利用	グループ全体のリサイクル率を83%にする	リサイクル率83.2%	2工場の焼却炉を廃止したことで、廃プラなど今まで焼却していた物をリサイクル委託するようになったことでリサイクル率が向上しました。しかし、今後は廃棄物排出量の増加が課題となります。	リサイクル率86%へ	リサイクル率90%へ
部門別テーマ・目標	廃棄物発生量の削減	ハム・ソーセージ工場の廃棄物発生量を2002年度比5%削減	発生量3.3%削減	包装フィルムのロス削減、汚泥の減量化等に取り組みましたが、製造数量の増加をカバーするには至らず、未達成となりました。	2002年度比9.7%削減	2002年度比14.3%削減
	ISO14001認証取得拠点拡大	ISO14001認証取得事業所1拠点	1拠点認証取得	2003年度1工場にて認証取得。2004年度においても7月に東北日本ハム(株)青森工場が取得し、現在4事業所が認証に向けて活動中です。	2拠点認証取得 認証取得に向けた活動の中でシステム構築に時間がかかるため目標を5拠点→2拠点へ下方修正します。	4拠点認証取得 目標の修正は有りませんが、新中期計画期間中の認証取得拠点数が3拠点分減ります。
	低公害車・低排出ガス車の導入拡大	営業部門の車両比率19%	車両比率27.5%	低公害車・低排出ガス車の車両比率が前年比16.7%向上しました。	車両比率38%へ	車両比率57%へ
	グリーン購入率の向上	本社・東京支社のグリーン購入率を60.9%にする (集計適用範囲を広げたため、目標値を見直しました。)	グリーン購入率52.5%	用紙類を除く事務用品では、グリーン購入率増加74%でしたが、帳票類の再生紙利用が、2004年5月よりの開始となったため、未達成となりました。	グリーン購入率65.8%へ (集計適用範囲を広げたため、目標値を見直しました。)	グリーン購入率69.7%へ (集計適用範囲を広げたため、目標値を見直しました。)

諫早プラントの取り組み

<http://www.nipponham.co.jp/eco/isahaya.html>

日本ハム(株)諫早プラントは、工場用水使用量、CO₂排出量の削減、廃棄物の削減などを目標に、全従業員が一体となって取り組んだ結果、その成果が認められ、2004年4月1日、ISO14001の認証を取得しました。

●廃棄物焼却炉のコージェネレーションシステム

廃棄物焼却炉のコージェネレーションシステムの導入を行い、焼却炉に廃熱ボイラーを組み合わせることで、排出ガスの冷却を行うと同時に、その熱源で湯を沸かし、得た蒸気を製造ラインの熱エネルギーとして再利用しています。その結果、重油換算で1,000kl/年、CO₂排出量換算では2,770t/年の削減効果が出ています。

●緑地の整備

工場内緑地の整備と確保を行いました。将来的には一般の方々にも開放する予定です。



(ISO14001認証取得 環境マネジメントシステムの構築)

●洗浄エリアの区分化

洗浄エリアと非洗浄エリアを分離し、洗浄作業を集中して実施することにより、使用水量を削減することができました。また水が周囲に飛び散らないため、床のドライ化が進み衛生レベルも向上しました。



取り組み前



取り組み後

●地域コミュニケーション

地域との良好なコミュニケーションづくりの一環として、工場周辺の清掃活動を実施しました。



●段ボールのリサイクル

工場から出る段ボールのリサイクル化を促進しました。



日本ハム(株)諫早プラント(長崎県諫早市)

〈諫早プラント・審査の風景〉

●**トップインタビュー**
諫早プラントの工場長が、環境マネジメントシステムの取り組み状況を説明します。その後、各部署の担当者にも順次インタビューが行われます。



場内視察

●**場外視察(審査)**
焼却炉、排水処理施設などの管理状態やリスクを確認します。

●**場内視察(審査)**

工場内での取り組み状況をチェックします。実際の製造ラインに立つ従業員にもインタビューが行われ、全員が自らの役割や立場を理解・実践しているか確認されます。



●**認証**

認証期間は3年毎に更新。認証取得後も、環境マネジメントシステムの継続的改善に努めます。

●**諫早プラントISO14001**

☑**認証取得・事務局スタッフ従業員一丸となった取り組みが実を結んだ認証取得に喜びもひとしおです。これに満足せず、今後も工場をとりまく豊かな自然に目を向け、「環境にやさしい」工場でありつづけるための努力をしています。**

ISO14001 認証取得の取り組み

http://www.nipponham.co.jp/eco/nh_iso14001.html

日本ハムグループでは、「環境憲章」実現のための基礎的なインフラとして**主要な拠点からISO14001*の認証取得を進めています。**

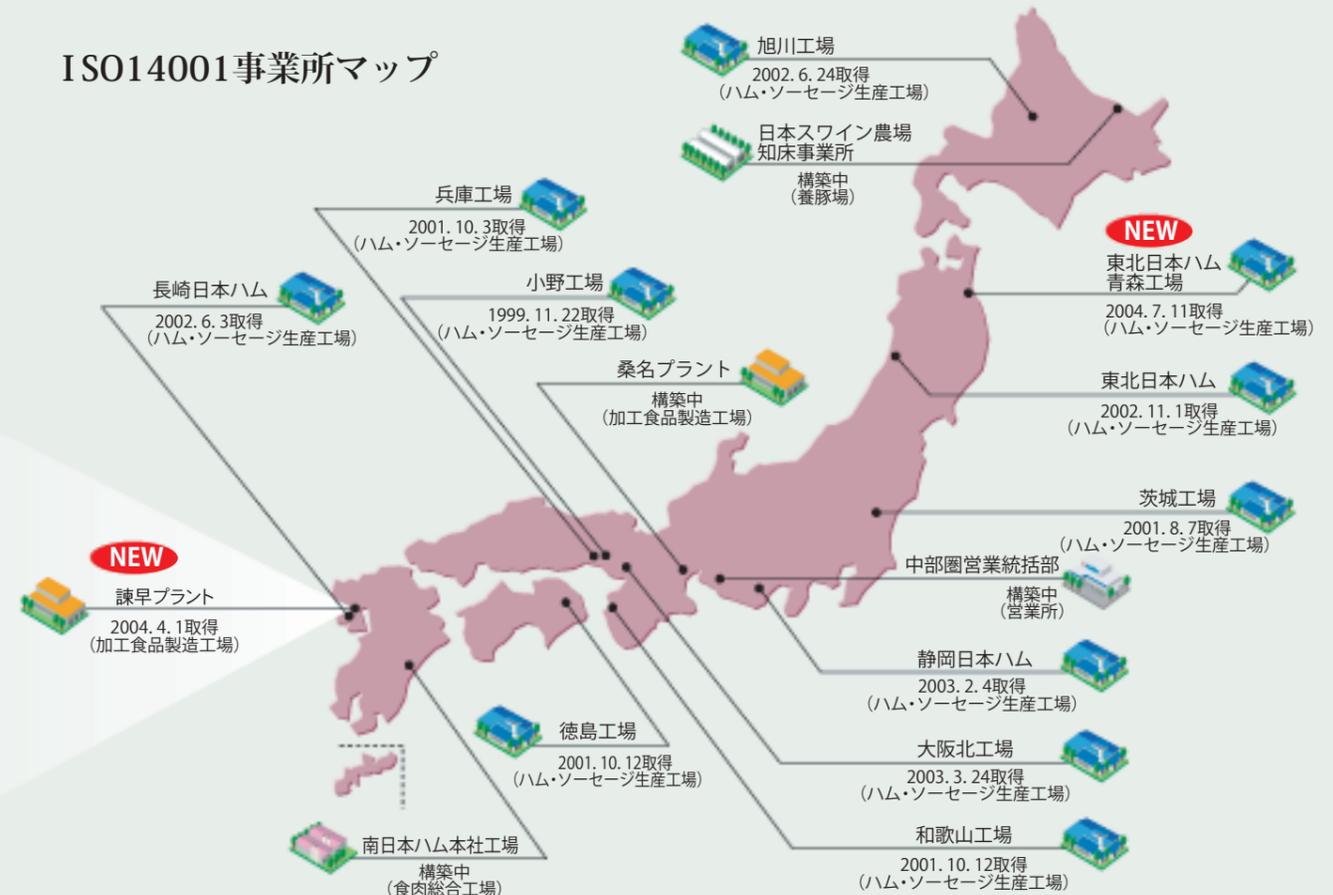
*ISO14001

国際的な標準規格を制定、普及促進するISO(Inter-national Organization for Standardization=国際標準化機構)が定めた環境マネジメントシステムや環境監査に関する規格。各企業が環境安全に向けた自己管理に取り組んでいくために定められた指標。

(ISO14001認証事業所及びグループ会社)

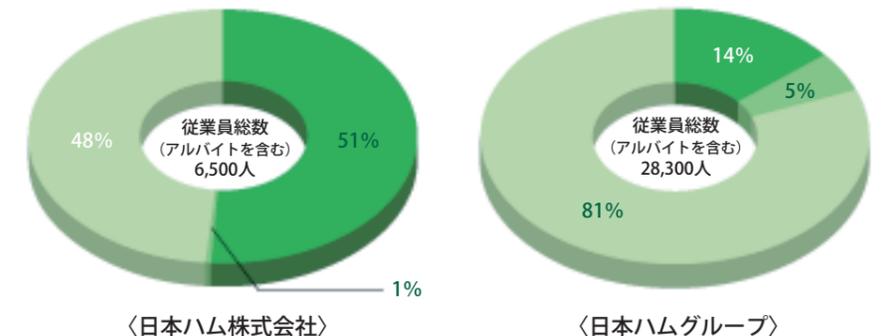
事業所・グループ会社名	所在地	認証取得日	審査機関	認定機関
2004年 ☑ 東北日本ハム(株)青森工場	青森県青森市	2004.7.11 ☑	SGSジャパン ☑	JAB
2004年 ☑ 日本ハム(株)諫早プラント	長崎県諫早市	2004.4.1 ☑	SGSジャパン ☑	JAB
2003年 ☑ 日本ハム(株)大阪北工場	大阪府大阪市	2003.3.24 ☑	SGSジャパン ☑	JAB
2003年 ☑ 静岡日本ハム(株)	静岡県吉田町	2003.2.4 ☑	SGSジャパン ☑	JAB
2002年 ☑ 東北日本ハム(株)本社工場	山形県酒田市	2002.11.1 ☑	SGSジャパン ☑	JAB
2002年 ☑ 日本ハム(株)旭川工場	北海道旭川市	2002.6.24 ☑	SGSジャパン ☑	JAB
2002年 ☑ 長崎日本ハム(株)	長崎県川棚町	2002.6.3 ☑	SGSジャパン ☑	JAB
2001年 ☑ 日本ハム(株)徳島工場	徳島県石井町	2001.10.12 ☑	SGSジャパン ☑	JAB
2001年 ☑ 日本ハム(株)和歌山工場	和歌山県和歌山市	2001.10.12 ☑	SGSジャパン ☑	JAB
2001年 ☑ 日本ハム(株)兵庫工場	兵庫県加古川市	2001.10.3 ☑	SGSジャパン ☑	JAB
2001年 ☑ 日本ハム(株)茨城工場	茨城県下館市	2001.8.7 ☑	SGSジャパン ☑	JAB
1999年 ☑ 日本ハム(株)小野工場	兵庫県小野市	1999.11.22 ☑	SGSジャパン ☑	JAB

ISO14001事業所マップ



●ISO14001カバー率

ISO14001の認証を受けている事業所で働いている人の割合を示しています。



■ 認証事業所で働いている人 ■ 現在構築中の事業所で働いている人 ■ それ以外の人

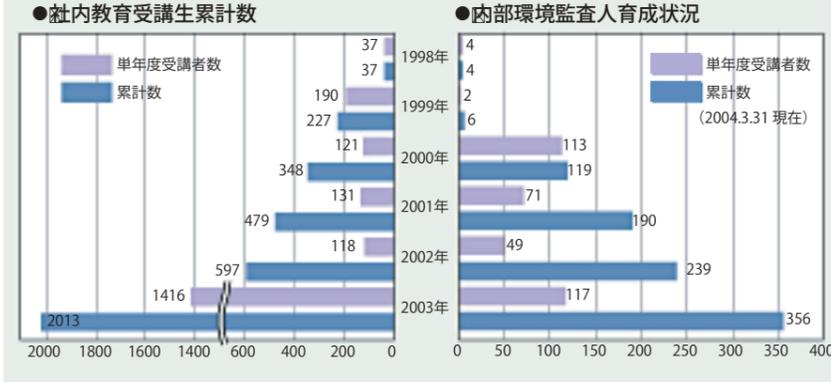
※人数は変動するため、概数で表しています。(2004.3.31現在)

環境教育の取り組み

http://www.nipponham.co.jp/eco/nh_recommend.html

環境教育：人事教育制度の中で一般社員に対する「環境教育」を1998年度より開始しています。原則的に入社時、主任、主事、管理職就任時の節目ごとに実施。2003年度はグループ会社の管理職者への教育実施により受講者数が増加しました。

内部環境監査人：環境マネジメントシステムを継続的改善に導いていくためには、質の高い内部監査人が必要です。ISO14001導入に伴い、外部機関による内部監査人養成研修を開催し、内部監査人の育成を進めています。内部監査人は年1回リフレッシュ研修を受け、監査能力の維持向上に努めています。



自主的な環境学習

日本ハムグループでは、職場単位で環境問題に関する自主的な学習も行っています。環境問題について学び、日頃の業務の中で、実践することが目的です。



〈環境問題講義を受けた社員の感想から〉
(2004年5月実施 日本ハム(株)九州販売部)

- 環境問題が奥深いものだと改めて認識しました。宮崎ではごみの分別収集が厳しいですが、これからも徹底していきたいと思えます。
- 今後は売り場でもっと積極的にトレーリサイクルに努めたいと思えます。家庭でも卵のパックや牛乳パック、トレーを家族でリサイクルに出そうと思えます。

研究開発の取り組み

http://www.nipponham.co.jp/eco/nh_comnucation_3.html

日本スワイン農場(株)知床事業所では、北海道大学、網走市と共同で、堆肥が発酵する時の熱を利用して、冬場の野菜の栽培試験を行っています。



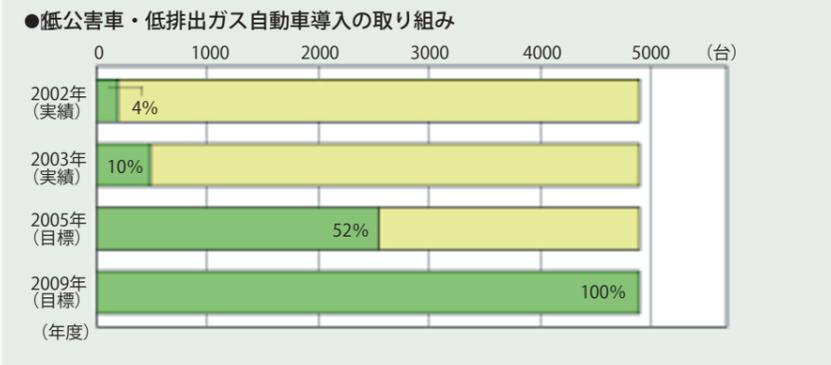
堆肥熱を利用した冬野菜の栽培

自動車への取り組み

http://www.nipponham.co.jp/eco/nh_hozen.html

日本ハムグループでは、2005年度末までに約50%の車を、2009年度末までに残りのすべての車を低排出ガス自動車などに切り替えることを目指しています。2004年3月末現在、車輛数4,830台(大型貨物自動車は除く)。そのうち486台は低排出ガス自動車[超(131台)、優(154台)、良クラス(201台)]です。

前年度に比べて6%増えましたが、全体に占める割合はまだ10%です。目標に向けて切り替えを進めてまいります。



〈地球環境に優しいハイブリッドカーの導入〉

ハイブリッドカーは、電気動力と、ガソリンエンジンまたはディーゼルエンジンとを組み合わせた車です。それぞれの長所を利用して走行するハイブリッドカーは、従来の車両に

比べて、CO₂(二酸化炭素)やNO_x(窒素酸化物)の排出量を少なく抑え、しかも燃料消費も抑えることができます。



中日本フード(株)大阪営業部が導入したハイブリッドトラック。「安心・安全とともに、環境意識にも配慮します」

徳島工場

排水浄化への取り組み

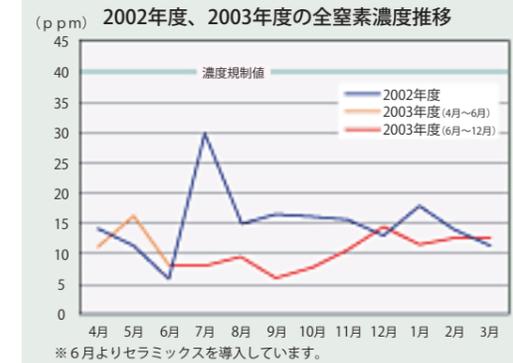
徳島工場では、瀬戸内海特別措置法第5次総量規制の開始に合わせ、工場から瀬戸内海へと流れ込む工場排水の汚濁負荷低減に取り組みました。

従来の排水浄化への取り組みに加え、より汚濁負荷を低減するために、(株)エコラヴィー社のセラミックスボール、パウダーを導入し、改善を図ってきました。

これらのセラミックスには、光触媒(酸化チタン)が塗布されており、光が当たることにより、マイナスイオンの発生や微生物の活性化等の効果をもたらします。

また、水中等の光が届きにくい設置場所については、水流、温度変化により同等の効果をもたらすセラミックスを導入しています。

2003年度では、昨年度と比較して



セラミックスボール



油脂分離槽



調整槽

あったシート状のフィルムを細かく裁断し、洗浄、脱水の工程を経て、発電

所の燃料としてサーマルリサイクルしています。

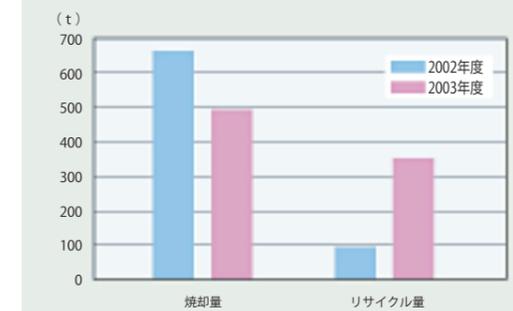
茨城工場

廃棄フィルムを燃料に

茨城工場は、東洋一の製造能力を持つハム・ソーセージ工場です。

製造される製品に比例して、工場へ入荷される原料も非常に多量となっています。それに伴い、原料を包んでいるプラスチックフィルムの廃棄量も膨大なものとなっていました。これらのプラスチックフィルムは焼却時にダイオキシン類が発生することもなく、燃料としても使用することができる品質の高いものですが、従来は、付着した血液・肉片の除去ができず、焼却処分としており、茨城工場の大きな課題となっていました。

ゼロ・エミッションへの取り組みの一環として、プラスチックフィルムの燃料化に取り組みました。破碎・洗浄機を通すことによって、洗浄が困難で



破碎機



廃プラスチック(破碎・洗浄後)

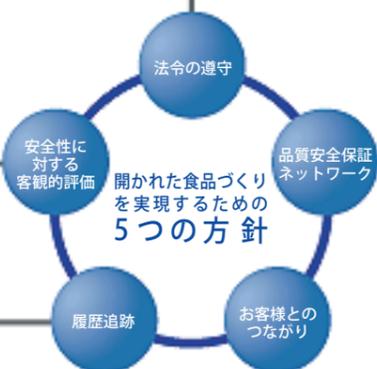
もっと開かれた食品づくりへ「OPEN品質」

<http://www.nipponham.co.jp/open/index.html>

安心しておいしくお召し上がりいただくために、お客様の視点で商品・サービスを提供する=品質。さらに、お客様の立場から、お客様が知りたい情報をできるだけ開示する=OPEN。この二つを組み合わせることで、お客様の視点に立った安心・安全な食品づくりを実現しています。

- ・関連する法律・基準、業界の規約の遵守
- ・国際品質保証規格ISO9001に基づく「日本ハム品質保証規格」の構築

- ・HACCPシステムの導入
- ・外部機関からの認証取得



商品情報管理システム (誠実くん)

- ・商品仕様書／商品カルテ
- ・商品カルテ履歴管理

お客様対応システム

- ・SMILE (QAシステム)
- ・食肉QAシステム

トレーサビリティシステム「NICOT」

お客様の安全に関する取り組み

<http://www.nipponham.co.jp/nicot/index.html>

お客様の安心のために、グループ内で生産・加工する国産&豪州産牛



「トレーサビリティシステム NICOT」のトップ画面

肉・国産豚肉・国産鶏肉について、インターネット上での情報開示を行っています。検索画面で製品の包装容器に記載されている「お問い合わせ番号」をパソコンに入力すると、即座に生産者・飼料・加工場所などの詳細情報を確認することができます。



商品パッケージに貼られているラベルのお問い合わせ番号を入力すると、生産農場、品種、飼料などの情報を確認できます。

「SMILEシステム」

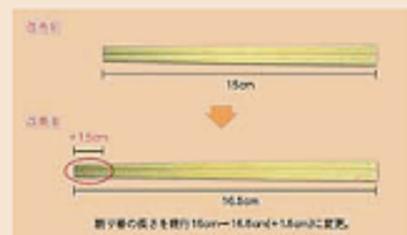
お客様サービス室の事例

<http://www.nipponham.co.jp/consumer/index.html>

お客様からの質問やご意見を、社長直轄部署の「お客様サービス室」でお受けしています。グループの拠点を結ぶネットワークで、寄せられた情報に各専門部署が迅速に対応するとともに、お客様の声を商品の開発・改善などにも役立てています。

【お客様サービス室にお寄せいただいたお声に応え改善した商品例】

「お弁当に付いている割り箸が少し短くて使いにくいのですが…」というご指摘に応じて『デリカカップ』、『カップデリカ』、『ごほん生活』シリーズ全品の容器の形状を変更し、フタのスペースを1.5cm広くしました。これにより、割り箸を15cmから16.5cmに



デリカカップ すき焼弁当

奥様重役会 & ファミリー会

<http://www.nipponham.co.jp/okusama/index.html>

『奥様重役会』は「商品開発に主婦の声を生かしたい」との考えから、1969年に設立しました。会員は半年の任期中、当社役員との意見交換や試食会で、商

品への提言を行っています。また、『奥様重役会』を経験された方が任期終了後に参加される『ファミリー会』では、東京・大阪の約700名の会員が、郷土料理研究や手づくり研究など様々な活動を行っています。



豚生産者を訪ねるファミリー会会員(茨城県つくば市)

もり 「森林を守ろう！運動」

http://www.nipponham.co.jp/eco/nh_comnucation2.html

2002年度より、収益の一部を森林資源の造成や国土環境保全活動に役立てる「森林を守ろう！運動」を行っています。

2003年7月には兵庫県の大成山につづき、茨城県のつくば山に「みんなの森林」が誕生。地元事業所の社員を中心に、＜地域に即した環境保全活動＞としての活動を展開しています。また、「みんなの森林」に一般の生活者の方をご招待。森林の大切さを学ぶことのできる貴重な体験として、たくさんの方々にご好評いただきました。



一般参加者による植樹(兵庫県大成山)



ハム・ソーセージ 手づくり体験教室

<http://www.nipponham.co.jp/simodate/index.html>

お客様にハム・ソーセージ文化をより身近に感じていただくための活動を展開しています。2004年9月には長崎日本ハム(株)(長崎県東彼杵郡川棚町)が『長崎浪漫工房』をオープン。ここでは本場ドイツのハム・ソーセージづくりを行い、また製造工程の見学や、手作り体験教室も開催しています。



長崎浪漫工房(長崎県東彼杵郡)の外観(左上)と敷地内に設置されたスモーカー(右上)



手づくりソーセージ教室(下館工房)

OPENファクトリー 工場見学

<http://www.nipponham.co.jp/kengaku/index.html>

日本ハムグループでは、「安心・安全・美味しさ」を第一とした商品づくりをご覧いただくために、工場見学を実施しています。実際の製造工程を見学後は、できたての製品の試食もしていただくことができます。またホーム

ページの『バーチャル工場見学』サイトでも、シャウエッセン、中華名菜、チキチキボーンの製造過程を紹介しています。

工場見学に参加された方には、冊子「環境教室」をお配りし、私たちの生活をとりまく環境問題について、消費者の方々への情報提供を行っています。



工場見学(茨城工場)

見学者に配付している冊子『環境教室』

2003年度 環境会計結果

日本ハムグループでは、環境省ガイドラインに準拠した算出基準を設定し、2000年度よりハム・ソーセージ事業部門にて「環境会計」を試行しています。環境会計は環境対策にかかわる費用とその効果を金額で表すもので、公害防止や廃棄物処理など環境保全に投じた費用とその結果としての省資源化など

の節減効果を対比しています。

※集計対象：2003年度より新たにデリ商品事業部、食肉事業本部、加工事業本部管轄の各工場を追加しております。

日本ハム(株)：8工場、静岡日本ハム(株)：1工場、長崎日本ハム(株)：1工場、日本ハム食品(株)：3工場、日本ハム惣菜(株)：7工場、日本フードパッカー(株)：4工場、東北日本ハム(株)：2工場
※対象期間：2003年4月1日～2004年3月31日

算定方法について
 *環境省ガイドラインに準拠して、算出しています。
 *固定資産は当期取得額を投資額として計上しています(当期費用には減価償却費は含まれておりません)
 *環境目的とされる費用を集計していますが、他目的との複合的なコストは差額方式または按分方式で算出しています。
 *人件費は環境目的分を算出し、すべて管理活動コストに算入しています。

●環境保全コストと環境保全活動に伴う経済効果

分類	主な内容	環境保全コスト			経済的効果		
		投資額	費用額	コスト合計	収益	費用削減	合計
①事業エリア内コスト		357,867	1,208,093	1,565,960	117,713	467,833	585,546
内	*公害防止コスト	215,419	329,721	545,140			
	*地球環境保全コスト	84,088	116,316	200,404	491,991	491,991	
	*資源循環コスト	58,360	762,056	820,416	117,713	-24,158	93,555
②上下流コスト	グリーン購入、容器包装対策など		189,671	189,671			
③管理活動コスト	環境教育、ISO14001、人件費など	22,664	237,482	260,146			
④社会活動コスト	緑化、地域活動、支援、情報開示など	1,800	12,936	14,736			
⑤環境損傷コスト	修復(及び引当金)のための費用		3,323	3,323			
合計		382,331	1,651,505	2,033,836	117,713	467,833	585,546

<用語の説明>
 ※環境保全コストの投資額：環境保全対策に係るもので設備の購入や工事など、長期にわたり効果が持続する物に対する支出金額。
 ※環境保全コストの費用額：環境保全を目的とした対策を行う際に発生する費用および損失金額。
 ※経済的効果の収益：リサイクルによる有価物売却金額
 ※経済的効果の費用削減：省エネにより費用削減出来たと考えられる効果金額(電力・燃料・水) 廃棄物削減により費用削減出来たと考えられる効果金額

<自己評価>

●環境保全コストについて

環境保全に係る投資金額は3億8,233万円、費用金額は16億5,151万円となりました。廃棄物処理コストの割合が環境保全コスト全体の40.3%となり最大となっています。一昨年と比較しても全体比率で1%増加しており、廃棄物処理費用の削減を今後の課題として考えています。

●経済的効果について

収益で1億1,771万円、費用削減金額で4億6,783万

円となりました。一昨年と比較しても7億2,472万円の経済的効果が見られました。

これは、主に製造工場に於ける環境保全活動の効果により省エネルギー化が進み重油、LPG、水に掛かる費用の削減に加え、ダンボールや動物性残渣の有価物化が進んだことによります。詳細を見ますと、リサイクルに掛かる費用のみマイナス金額となりました、この主な理由は、ハム・ソーセージ事業部で焼却炉を廃止したため廃棄物をリサイクルに回したことにより委託費用が増えたためです。

●環境保全効果

分類	効果(低減)量	昨年対比
①廃棄物再資源化率 %	再資源化率90.7%	6.8%改善
②廃棄物処分量 トン	4,710.4t減りました	41.8%改善 (47.1%改善)
③燃料(原油換算) k l	1,702.2kl減りました	3.5%改善 (11.3%改善)
④購入電力 kwh	7,139.5kwh増えました	3.2%増加 (5.2%改善)
⑤CO ₂ 排出量 トン	1,534.2t減りました	0.7%改善 (8.8%改善)
⑥用水 m ³	11,690m ³ 減りました	2%改善 (9.9%改善)

<自己評価>

●環境保全効果について

一昨年と比較すると購入電力量を除く全ての項目で発生量および使用量に於いて改善が見られました。製造数量原単位と比較すると全ての項目で改善が進んでいます。製造工場の環境保全への取り組みにより、生産効率の向上と省エネ効果が進み成果を出すことが出来ました。今後もグループ全体で環境保全に対する従業員への意識向上を図り、更なる環境負荷低減に取り組んでまいります。

環境レポート2004

「環境レポート2004」は、日本ハムグループとして今回で4回目の発行となります。制作にあたっては、「NPO 京都エネルギー・環境研究協会」や、皆様からいただいたアンケートのご意見を参考にし、一般の生活者の方々により「見やすく」「分かりやすく」読んでいただけるよう編纂しました。



環境レポート講評会(2003年4月 京都市北区)

表紙のイラストはくぼ・りえさん

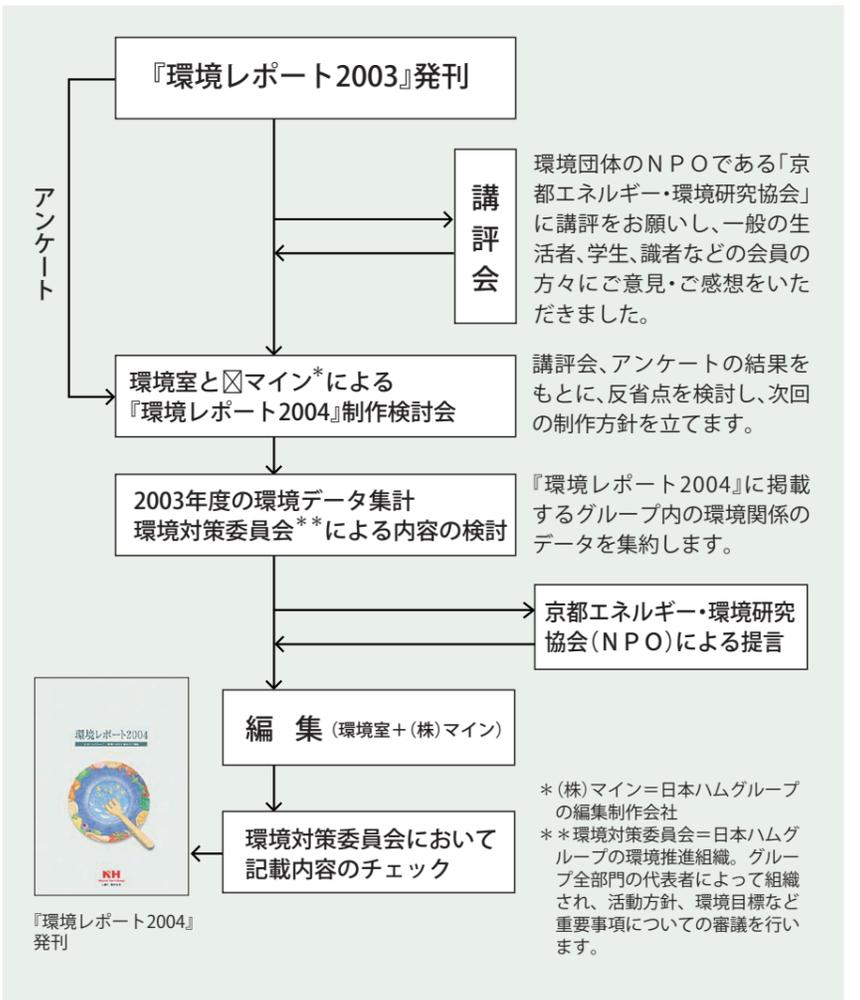
*1974年生まれ
 *大阪府枚方市在住
 *成安造形短期大学卒業
 *プロップ・ステーションバーチャル工房リーダー
 *生後6カ月にウエルドニッヒ・ホフマン病とわかる。
 *全身の筋力がほとんどありません。
 *全介護が必要で車椅子生活をしています。
 *著作：絵本「バスデーケーキができたよ!」(ひさかたチャイルド社/東京都文京区)
<http://www.prop.or.jp>

【講評会・アンケートからいただいたご意見から】

- 紙質、持ち易さ、内容の平易さなど、以前のものより見やすくなった。
- ありがとうございます。これからも改良を重ねてより良いものにしてまいります。
- 「コンプライアンス経営」についてももう少し具体的に紹介してほしい。
- 15ページにてグループのコンプライアンス体制を紹介させていただきました。
- 「ISO14001認証取得の取り組み」で工場が紹介されているが、住所を明記してほしい。その方が安心だし、親しみが持てます。
- 10ページにISO14001認証取得工場の所在地を記載いたしました。
- 「ご報告」は評価できる。企業の社会的責任の心構えが出ています。
- これからも、お客様の信頼を第一に、ネガティブ情報についても積極的に公開してまいります。

日本ハム 『環境レポート2004』 について

京都エネルギー・環境研究協会(NPO)代表
新宮 秀夫



『環境レポート2003』について、講評会・アンケートでご意見・ご提案をいただきました。ご意見からは、生活者の方々から、大手食品企業である当社に「インテグリティ(誠実性)」を備えた活動を強く求められることが感じられました。このことを真摯に受けとめつつ、企業の社会的責任を果たすことを第一義として、今後も環境保全や「環境レポート」の作成に取り組んでまいります。(日本ハム(株) 環境室)

今年も美しい表紙のレポートを拝見して、環境に対する取り組みが積極的に実行されている事に感心いたしました。改めて食品に携わる仕事の社会に対する責任の重さを実感した次第です。昨年度、一昨年度のレポートと較べると内容がずいぶん纏まって来たと思います。人々の願いに自分の行いを合わせる、すなわちコンプライアンスの精神がここにも生かされているのでしょうか。

毎年少しずつでも改良を重ね、いつもフレッシュな気持ちで前進することが大切です。それは食品そのものに我々が望む、おいしさ、新鮮さ、安全性と共通するものでしょう。日本ハムが、いつも緊張感を欠かさず、感謝と愛情を持って製品を作っておられるのと同様に、この冊子が、いつも楽しく、そして実質的なものとして多くの人に読まれるように伸びていくことを期待いたします。



Nippon Ham Group

人輝く、食の未来

<http://www.nipponham.co.jp/>

『環境への取り組み』

<http://www.nipponham.co.jp/eco/index.html>



古紙配合率100%再生紙を使用しています。



本「環境レポート2004」は、古紙含有率100%の再生紙を使っています。

インキは、石油資源の保護、大気汚染の原因となるVOC（揮発性有機化合物）の発生を減らすために、大豆油インキを使用しています。大豆油インキは生分解性や脱墨性および印刷物のリサイクル性にも優れています。